

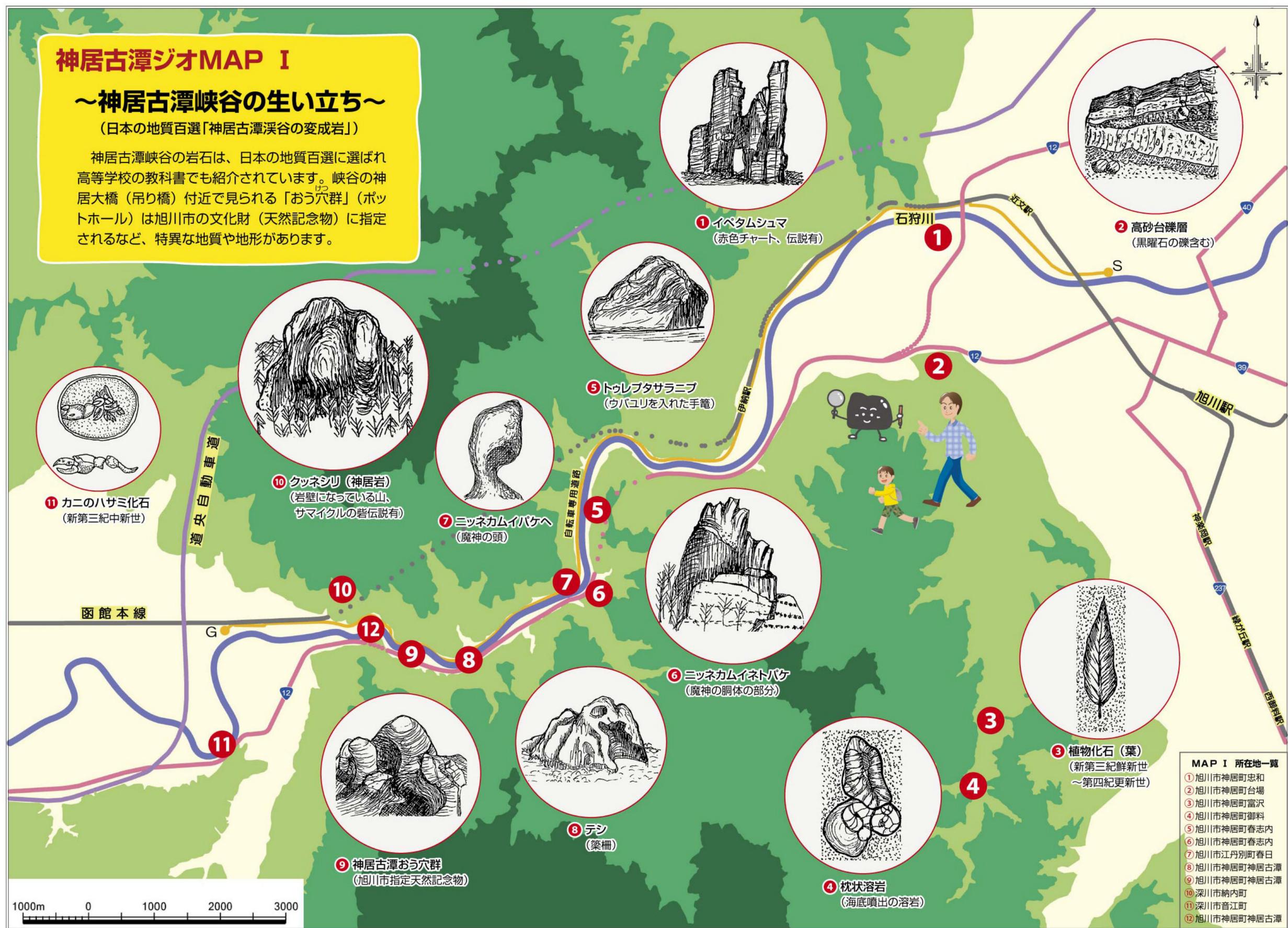
神居古潭ジオMAP I

～神居古潭峡谷の生い立ち～

(日本の地質百選「神居古潭渓谷の変成岩」)

神居古潭峡谷の岩石は、日本の地質百選に選ばれ高等学校の教科書でも紹介されています。峡谷の神居大橋(吊り橋)付近で見られる「おう穴群」(ポットホール)は旭川市の文化財(天然記念物)に指定されるなど、特異な地質や地形があります。

神居古潭再発見 ガイドMAP



Q&A 神居古潭とジオパーク!?

神居古潭は北海道の中央部、旭川市の西方に南北に連なる地質構造帯「神居古潭帯」の名称となる地域です。本会はこの特殊な地質帯周辺の魅力を再発見し、ジオパークに向けた活動を行っています。



- MAP I 所在地一覧**
- 旭川市神居町志和
 - 旭川市神居町台場
 - 旭川市神居町富沢
 - 旭川市神居町御料
 - 旭川市神居町春志内
 - 旭川市神居町春志内
 - 旭川市江丹別町春日
 - 旭川市神居町神居古潭
 - 旭川市神居町神居古潭
 - 深川市納内町
 - 深川市菅江町
 - 旭川市神居町神居古潭

10 クツネシリ(神居岩)

アイヌ語で kut-ne-sir "岩崖・になっている・山" を意味。神居古潭のランドマークとも言える神居岩。かつてはアイヌ民族のチャシ(砦)として利用されていたようです。アイヌの伝説では、文化神であるサマイクルカムイが、魔神ニツネカムイと闘った場所で、神居岩はサマイクルカムイの岩だったとする伝説も。現在は神居山ハイキングコースとして整備されています。

12 吊り橋下の結晶質石灰岩

その周囲を变质岩である緑色岩に囲まれた結晶質石灰岩。石材名では大理石と呼びます。吊り橋の上から見ると、灰黒色～灰白色の綺麗な縞模様が見える他、折り畳まれるようにほぼ180度褶曲しているのが印象的。まるで船を引き伸ばして半分折ってくっつけたようです。この結晶質石灰岩の層は、吊り橋の下周辺にどこまでも続いています。

8 テシ

アイヌ語で tes. テシは元来、"網み連ねたもの" という意味であり、魚を捕るための罟を意味します。地名に残っているテシの多くは、"岩が川を横断して罟のような姿をしているところ" になります。神居古潭にあるテシも石狩川の真ん中にあり、激流を横切るように顔を出しています。ここも丸木舟で移動する時の交通の難所の一つとして知られています。

1 イベタムシュマ

アイヌ語で ipe-tam-suma。"人を喰う刀の岩" を意味。アイヌ民族の伝説によると、かつて祭壇を作って火を鎮めた岩であり、この岩のそばには、そのとき妖刀を投げ入れた"底無し沼" があります(現在は水が無くなっています)。このイベタムシュマの岩質は、1億年以上も昔、陸から遠く離れた深い海底に堆積したプランクトン遺骸起源で赤色チャートと呼ばれます。

2 高砂台礫層

厚さ8m以上に達する地層中には軽石を大量に含み、露頭の下部では地層面と斜交する細かな縞模様が発達しています。この地層は、雨月沢火砕流堆積物起源と考えられています。火山灰の中には数cm程度の火山岩の円礫を含む1m以上の礫層が挟まっています。礫層の最上部をおおっている火山灰は美瑛火砕流堆積物起源です。

あさひかわジオパークの会 ～神居古潭峡谷再発見プロジェクト～

旭川市北門町9丁目
北海道教育大学旭川校 地学研究室
事務局 / e-mail:
asahikawa.geopark@gmail.com

この事業は、「公益財団法人太陽財団」の助成で活動しております。



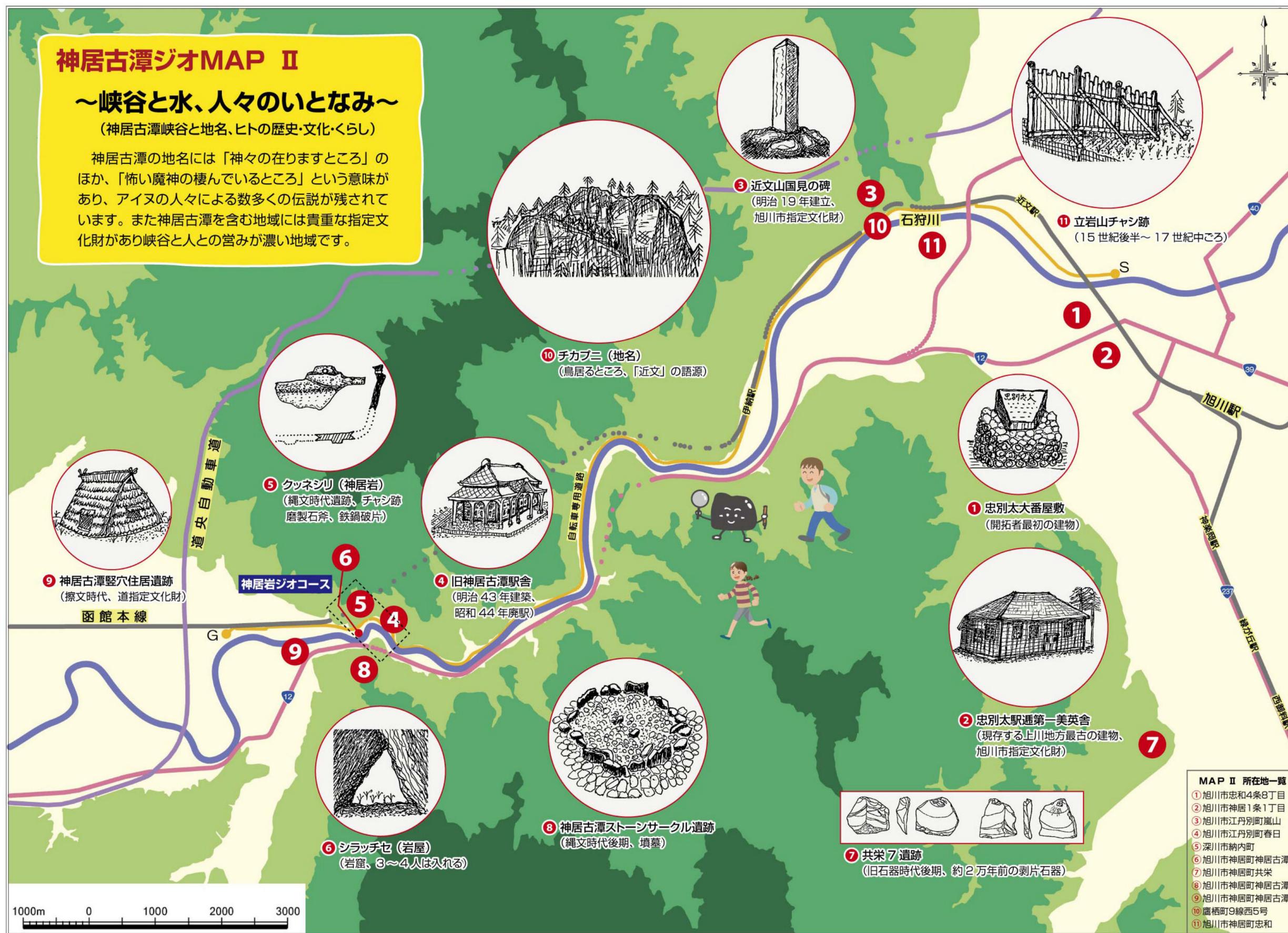
2013年12月発行

神居古潭ジオMAP II

～峡谷と水、人々のいとなみ～

(神居古潭峡谷と地名、ヒトの歴史・文化・暮らし)

神居古潭の地名には「神々の在りますところ」のほか、「怖い魔神の棲んでいるところ」という意味があり、アイヌの人々による数多くの伝説が残されています。また神居古潭を含む地域には貴重な指定文化財があり峡谷と人との営みが濃い地域です。



ポイントガイド (2013年6月撮影)

| | |
|--------------------------|-------------------------|
| <p>A 神居古潭駐車場</p> | <p>B 峡谷の吊り橋</p> |
| <p>C 石狩川の褶曲構造</p> | <p>D 旧神居古潭駅舎</p> |
| <p>E 緑の回廊</p> | <p>F 神居岩への案内</p> |
| <p>G 石灰質片岩の露頭</p> | <p>H 頂上からの眺望</p> |

- MAP II 所在地一覧**
- 旭川市忠和4条8丁目
 - 旭川市神居1条1丁目
 - 旭川市江丹別町嵐山
 - 旭川市江丹別町春日
 - 深川市納内町
 - 旭川市神居町神居古潭
 - 旭川市神居町共栄
 - 旭川市神居町神居古潭
 - 旭川市神居町神居古潭
 - 鷹栖町9線西5号
 - 旭川市神居町忠和

9 神居古潭竪穴住居遺跡
 昭和32年(1957)12月17日に道指定記念物(史跡)となりました。神居古潭の吊り橋(神居大橋)から約1.5km下流側、石狩川の左岸河川敷約3.5haの広範囲にわたって分布。擦文時代の竪穴住居跡219基とアイヌ文化期に属するチャシコツ(砦跡)の溝が1カ所残っています。住居は、径5m程度の正方形で深さ約1m、内部には中央に炉、4つの柱穴、一辺にカマドが作られていました。

8 神居古潭ストーンサークル遺跡
 神居山の中腹231m付近に径3~5mの円形に石を敷き詰めたストーンサークルが、昭和27年(1952)に発見されました。その後の調査で尾根の平坦部全体にわたって10基礎確認できました。このストーンサークル遺跡は約3,500年前の縄文時代後期中頃の共同墓地と考えられています。駐車場から徒歩で山道をおよそ20分かけて登って行くと到着します。

4 旧神居古潭駅舎
 明治34年(1901)に函館本線が開通した後、明治43年(1909)に神居古潭駅が設置。明治期における西洋建築意匠導入の特徴が玄関部分や下屋柱頭の装飾などに見られます。昭和44年(1910)に函館本線が電化・複線化とともに神居古潭駅は廃駅・廃止。平成3年(1991)3月15日に指定文化財となり、現在は、線路跡が旭川サイクリングロード、旧駅舎が休憩所として市民に活用されています。

3 近文山国見の碑
 明治18年(1885)8月、後の北海道初代長官となる岩村通俊と屯田兵本部長であった永山武四郎が石狩川奥地へ調査に来ました。そして、近文山山頂から当時未開の地であった上川原野を国見し、その開拓を決意したことを記念して、明治19年(1886)に国見の碑を建立。上川地方で最も古い石碑であることから、昭和41年(1966)1月15日に市指定記念物(史跡)になりました。

2 旧上川郡農作試験所事務所棟(忠別太駅通第一美英舎)
 今から約130年前の明治19年(1886)8月に道庁の農作試験所の官舎として建築された後、明治22年(1889)に上川道路(岩見沢~忠別太間)に5カ所設置された官設駅通の一つ。昭和41年(1966)に市指定有形文化財(建造物)になりました。この建物は、洋風建築様式が浸透してきた北海道の住宅様式をそのまま残しており、上川地方に現存する最も古い建物として知られています。

9 神居古潭竪穴住居遺跡 (擦文時代、道指定文化財)
 函館本線

5 クツネシロ (神居岩)
 (縄文時代遺跡、チャシ跡 磨製石斧、鉄鍋破片)

4 旧神居古潭駅舎
 (明治43年建築、昭和44年廃駅)

2 忠別太駅通第一美英舎
 (現存する上川地方最古の建物、旭川市指定文化財)

7 共栄7遺跡
 (旧石器時代後期、約2万年前の剥片石器)

9 神居古潭竪穴住居遺跡 (擦文時代、道指定文化財)

5 クツネシロ (神居岩)
 (縄文時代遺跡、チャシ跡 磨製石斧、鉄鍋破片)

10 チカブミ (地名)
 (鳥居るところ、「近文」の語源)

1 忠別太太番屋敷
 (開拓者最初の建物)

11 立岩山チャシ跡
 (15世紀後半~17世紀中ごろ)

9 神居古潭竪穴住居遺跡 (擦文時代、道指定文化財)

5 クツネシロ (神居岩)
 (縄文時代遺跡、チャシ跡 磨製石斧、鉄鍋破片)

10 チカブミ (地名)
 (鳥居るところ、「近文」の語源)

1 忠別太太番屋敷
 (開拓者最初の建物)

11 立岩山チャシ跡
 (15世紀後半~17世紀中ごろ)